

校 報

第 2 4 2 号
令和5.12.20
鳥 羽 商 船
高 等 専 門 学 校

校 長 挨 拶

グローバル、高度情報化、これからの社会を
みすえて

令和5年度は、日々の勉学、体育大会、漕艇大会、いろいろなコンテストで、体育館で、桟橋で、鳥羽丸で、あるいは課題学習や遠洋航海の船上で、あるいは海外で、さまざまな場面で本校の学生諸賢は大いなる頑張りを見せて活躍しました。いろいろな場面で見せてくれた「考える」そして「取り組む」姿勢、熟考、情熱、粘り強さ、そして謙虚さ、歓喜、そして涙は、自身のみならず周りにも感動と自信を与えて、さらなる歩みを進める糧・エネルギーを全校に、私たちに漲（みなぎ）らせてくれました。「すばらしい」を言いたい。

師走を迎えて、海学祭も滞りなく成功裡に終えて、鳥羽商船高専は、2024年に向かって進んでいます。教育研究環境へのデジタルの導入充実、練習船「鳥羽丸」の代船建造、ポンツーンの更新、情報通信にかかる産業界や三重県や伊勢市などの自治体との包括連携協定を締結して開かれた高専、恵まれた自然環境にあるマリン・リゾートキャンパスの創造をめざしてきましたが、海運企業とも包括連携して船員の交流や共同研究が始まっています。急速に変化し技術革新が期待される海上輸送と人材育成のこれからを共創しようとしています。思いつくままいくつかに記します。

～誰から学ぶか？～

学びたい。暗記では解決しない「どうしてそうなのか？」の疑問を解明納得したい。その気持ちは大事、まずは自分で考え抜くのも学びだ、ネットにもない、そんなときに人から「目から鱗（うろこ）が落ちる」ように学ぶことがある。人との出会い。大事です。

～一期一会（いちごいちえ）～

「一期」とは一生、「一会」とは一度の出会いのことです。一生に一度会うこと。また、一生に一度限りであること。いろいろな出会いや機会を大切に、生涯に一回しかない、またの巡りあわせはないと考えて専念せよという教えです。

～一隅（いちぐう）を照らすことの大切さ～

自分自身が置かれた場所で、一生懸命努力して、光り輝くことが出来る人こそが宝なのです。今いる居場所で、やるべきことはやりとげる。映画のセリフだったと思いますが印象に残っている表現、”You have done what you have been required.”。留学生報告会で留学生は日本で学んで帰国したら母国に貢献したいとしっかりと話してくれました。

～グローバルということ～

グローバルが言われて久しい。鳥羽では、グローバル教育推進室が、全学生と教職員を対象に英語学習アプリを配布しています。TOEICの500点から700点までをめざすプログラムを提供しています。世界の政治経済状況や環境変化を受けて語学力や異文化理解などのコミュニケーション能力が重視され、翻訳アプリや生成系AIはじめ支援のツールはありますが、語学力や異文化理解をはじめとした人のコミュニケーション能力は重要です。グローバル人材とは、語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感、異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ、このほか、幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと（異質な者の集団をまとめる）リーダーシップ、さらに言えば合意形成力かな、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等が挙げられています（文部科学省HP参照）。さて、今はどうでしょうか？これらは、今とこれからをめざす人が心がけることと言っても良いし、時を選ばず、求められるものでしょう。

自分自身のこと、小学校以来、多くの先生方と出会い、大きな影響を受けたのは歴史と国語の先生でした。英語は学校時代の勉強が、社会に巣立ったあとのブラッシュアップにつながっていったように思います。学びは誰にとっても一生ものなんです。語学力とは何か？いろいろ説明はあるでしょうが、「言いたいことをすぐ言える、相手を理解できる。」ことと、ここでは書いておきましょう。

世界を見渡すと、戦争がなくなりません、国際的な緊張も続き、海水温上昇、気候変動のなかで、COP28（国連気候変動枠組条約第28回締約国会議）がUAEのドバイで開催されていました。本校では、UAEのアブダビ海事アカデミー視察団が本年訪問しています。学生交流では、シンガポールや、ハワイとの交流に加えてニュージーランドが視野にはいっています。COP28では、2030年までに世界全体の再生可能エネルギーの発電容量を3倍に引き上げるということですが、鳥羽では、再エネの研究も息づいています。

2050年までには、世界人口の4分の1はアフリカにいる人たちになるとも言われており、世界そのものが大きく変わります。下の写真は、アフリカサブサハラのアフリカ共和国のWalvis Bayにある船舶職員養成施設 Namibian Maritime and Fisheries Institute (NAMFI)を訪れたときのものです。世界は商船学科と情報機械システム工学科のみなさんの前に大きく拓けています。そして日本はアジアのみならずアフリカからも期待されています。持続可能な生産と社会を制するのは物流であり、海上輸送であり、それらを支える高度の情報システムだと思

います。本校教職員、学生の益々の活躍を期待します。

NAMFI（文中）は、アフリカのナミビア共和国の沿岸中部に位置して大西洋に面する港湾都市 Walvis Bayにある。エロンゴ州に属し、大西洋に面する良港となり、日本からの進出企業もある。グリーン水素生産国を目指し水素戦略を発表している。日本には、イセエビ、カニ、マグロなども輸出しています。

